

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2008年4月30日

87号

NPO 法人「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

—— 春！一年の計が動き出すとき ——

連携の中で 自分たちの頑張りを



新年度の幕開けです。寒すぎもせず、暑すぎもせず人をのどかにさせるよい季節ですが、幼稚園に入園するおちびさんから、社会へ巣立つ青年たちまで、少し緊張の中で胸をはる、さわやかな出発のときでもあります。

いろいろなところで、前年度のことが決算総括され、新しい活動計画がうごきだします。

私たちを取り巻く福祉の世界でも、大小の組織が、公平で暮らしやすい社会、安全で豊かな生活を目指して、たくさんの“会議”を繰り返しています。そんななかで、いろいろな集まりと関わらせていただくと、網の目のように張り巡らせられた福祉への意識と努力の中でも、今すぐどうにかしたい私たちの現実との微妙な距離を感じます。

そして「まだ、日本の福祉はそこまで成熟しておらず、今しばらくは、自分たちで頑張らねばならない」とあらためて思うのです。ただ、このことは大切なことだと思っています。

社会全体の中では、ほんの一握りに過ぎない障害者、特に重度の人たちにとっては「全体がよ

くなってくれば. . .」では遅すぎるのです。そのことは、長い歩みの中で私たちが体験してきた事でした。しかし、この一握りの人たちの頑張りが、バリアフリーを進め、結果として全ての人たちに動きやすい社会へ向けての変化を作ってきたのも事実です。

また、私たちが言うように「誰もが、その個性を尊重され、個性に合わせて」暮らせるような社会が当たり前のことになれば、誰もが生き生きと自然に生きられるはずです。

とはいえ自分たちの周囲だけをよくしようとしても、社会とのかかわりの中で生きている以上ほんとはよくはならない。そこに、私たちが、周囲の様々な人たちとの連携の中で、活動していく必要があるのだと思います。また、根気よく市民の皆さんに、呼びかけていくことにも、一握りの人たちを支援する私たちの役割があるのだと思うのですが、いかがでしょうか。

この季節は、春がまたれる厳しくも優しい季節なのですが、先日の荒々しい“春一番”の嵐では、まだ畑も少し残っている「活動ホームしもだ」のあたりは、もうもうたる砂嵐が渦を巻き上げ、数メートル先も見渡せない状態になりました。

たわわになった庭の八朔オレンジの実が、駐車場に叩きつけられ割れています。余暇活動を楽しみにしている障害者は、めげずに通ってきましたが、ボランティアたちは、「砂漠の人たちは何時もこうなのかしら. . .」と、ぼやく事しきり。果てしなく続く大陸の住民の気持ちを共有した(?)一瞬でした。

* * *

さて、このところ続く食への不信は、中国産の毒入り餃子に止めを刺された感がしましたが、国内だからといって安心もできません。残念ながら全てを自分で作って食すということは、私たちには不可能なのですが、知らずに食べさせてしまうという加害者にならないよう、給食の材料などには、気をつけたいところです。

安全なものを摂ろうとしたら、自分たちでも努力しなければなりません。そして、このことは、なんにでも共通して言えることなのだと思います。

“おまかせ”で、要求する事だけでは、最低限の事ではまんしなくてはならないし、場合によっては、それ以下にもなってしまうという事もあるでしょう。

少し こじつけじみで聞こえるかも知れませんが、障害者や高齢者の生活の組み立ても、主張できない当事者に代わって、誰かが努力する事なしには、望むものは出来ないのではないのでしょうか。ここに、私たち「地域で生きる障害者を支える会」の会員の仕事があるのだと思います。

誰も全てを用意してくれる事はありません。私たちの手で、重度障害者の地域生活の灯をともし続ける決意をしたいところです。そしてそのことが支援する私たちにとっても、生きがいのある生活となることを、信じたいと思います。

出 会 い



飯田 静子

先日、学生時代の先輩A子さんより電話がかかってきました。A子さんとは46年間もお便りの交換をしていますが、どういうわけかまだ一度もお会いした事が無いのです。

Aさんが押入れの整理をしていたら、私の昔の古い手紙が何通か出てきて、読み返しているうちに、文通を始めたきっかけが何だったのかを思い出せず、電話をしたという事でした。Aさんは、心のどこかで見守り、心の支えとなってくれているありがたい先輩です。

振り返ってみますと、いままで悩んだり、もがいたりしている時にしばしばきっかけを作ってくれたり、行く先を示してくれたりする人が現れ、助けられている事が本当に多い事に気付かされます。

年齢や経験、仕事などとは関係なく、素敵な出会いをしてきました。でも、逆に、私は相手の方とどんな風に接してこれたのかを思うと反省しきりです。一人でも、飯田に会えてよかったとだけ思っただけのような出会いをこれからできるように、と思い起こさせてくれたAさんの電話でした。

地域交流 バザーのお知らせ

重度身体障害者が共に暮すグループホームが新吉田西部町会に開設してより「よつばホーム」は早くも6年半「第2よつばホーム」も3月で4年が経とうとしております。私たちは、毎年グループホームの庭で『バザー』を中心とした地域交流の集いを行って来ました。今年も、春のひと時をみなさんでお楽しみいただければと思います。ぜひお出かけください。



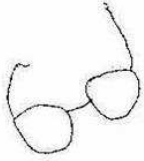
日 時： 3月29日（土）午前10時30分より 午後2時まで

会 場： よつばホームの庭

港北区新吉田町5623-1 TEL&FAX：045-592-7040

綱島よりバス①番 中町下車 九州石油GS裏となり

内 容：提供品の販売 衣料 雑貨 食品(お菓子、お赤飯、漬物など)
軽食コーナー (焼きそば、フランクフルト、コーヒーなど)



めがねの声

■ リハビリもずいぶん変わってきました・・・

少しずつ 春が来ているみたいですね。

この前 母や父と一緒にテレビを見ました。脳の働きを見ながらリハビリを決める様子を伝えた番組でした。あたまたに 機械のコードをいくつもつけて、歩く訓練や 検査をしていました。

脳の障害で からだの半分がマヒした人や、脳を半分とってしまった人が 訓練でなおって行きました。わたくしは 今は リハビリもずいぶん変わっていくと驚きました。

そして脳が傷ついて 手足が動かなくなる様子や、頭から脚までつながっているのだ、という事が よくわかりました。

* * *

わたくしの事を 少しかきます。

私は 支えなしに 立つ事も歩く事もできないのですが、本当に小さい頃から 何もわからないまま 母と近くの公園をよく歩きました。後ろから両脇を支えられていたから 歩いたとは いえないかもしれませんが、大きな土管の中をくぐったり、子供が遊ぶ公園が とても好きだったからだそうです。

学校へ通うようになると、朝や帰りに母と 学校の周りを毎日歩いたりしました。先生や給食のおばさんたちも 応援してくださいました。

棒や ガードレールにつかまって 歩くようにもなりましたが、5年生の頃 重い風邪をひいて 長く訓練ができなくなってしまったり、背が伸びる頃だったので ヒザがかたくなって曲がってきました。私は金具の入った補装具をつけて 毎日立つ訓練をしました。

脚のスジを切る手術をして 伸ばす 友達もいましたが、私は知り合いの医師から 「必ずよくなるわけではない」といわれたので 手術はしませんでした。

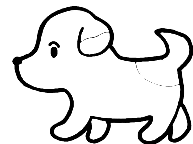
* * *

今 毎日「しもだ」で 全身運動といっているリハビリをしています。習字をすることで 字も 少し丸いところは丸く書ける様になったり、革工藝のサークルでやっている 型押しも、革に型がつくようになりました。10年ぐらいかかって できた変化です。

私は、外へ出る事がとても好きですから、毎日のリハビリを とても大切に思っています。何とか 少しの段差なら手伝ってもらって上られるように、今の 自分の足の力を保って 行きたいと思います。

バリアフリーの事は大切だけど 全てのところを そうすることはできないし、ずっと いろいろなところへ 出掛けたいので...

大原友子



よつばホーム



寒気はまだまだ退きませんが、いかがお過ごしでしょうか……。

2月3日は節分でした。よつばホームでも無病息災を願い、豆まきしました♪

それぞれ豆まきのスタイルが違っていてももしろいです^^

入居者の一人は「鬼はぁ外！ 福はぁ内！」とオーソドックススタイルで豆まきをし、またあるものはサウスポーから繰り出される剛速球で、職員めがけて豆まきしたり、そしてそれらを見て「シッシッシ♪」と笑っているものもいたり……。

それぞれ自分なりの節分を楽しんだようです^^

節分当日は、前日から降り続いた雪が見事に積もりました^^；

豆まきよりも久しぶりの大雪の方が印象に残る一日となったようです。

ゞ(//^▽^)/わあい♪

第2よつばホーム

まだまだ寒い日が続いていますね。そんな日々ですが第2よつばホームの入居者は大きくは体調を崩さずに過ごしています。

毎日一緒にご飯を食べて、入浴して、そして一緒に寝ていると、まるで家族のようです。今回はそんな入居者のキャラクターについてお話します。

阿部さんはムードメーカーのような存在。スタッフを呼んだり、話を聞いて大声で笑ったり、いつも楽しい雰囲気を作ってくれます。

山田さんはみんなの楽しかったり騒がしい雰囲気などを感じて声を出して教えてくれたり、みんなの空気を感じているようです。

富岡さんはスタッフの表情をよく見て笑顔を見せてくれて、その笑顔にみんな癒され思わず疲れが飛んでしまったり、スタッフと一緒に他の入居者の様子を見ていたりしています。

大原さんは一日の様子を話してくれたり、楽しい会話をしてスタッフを楽しませてくれたり、時には他の入居者の体調を気にかけてスタッフと一緒に心配していたりしています。

家庭のように温かい雰囲気をこれからも続けていきたいです。

2月11日は山田宏さんの誕生日でした♪♪

おめでとうございます^^

当日は夕飯にケーキを食べてお祝いしました。